

学校教育目標	ゆたかに かしくく たくましく
目指す学校像	子どもが行きたい学校 保護者が行かせたい学校 教職員がやりがいを感じられる学校 地域が信頼を寄せる学校
重点目標	1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 2 チーム学校による生徒指導・教育相談体制の充実 3 コミュニティ・スクールとしての成長に向けた学校・家庭・地域の連携 4 安心・安全な学校であるための職員の危機感意識の向上とリフレッシュ工事への計画的対応 5 一人ひとりが力を発揮できる学校であるための教職員研修と業務改善の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価
年 度 目 標				年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	【学びの質の向上に関する取組】 （現状） ○全国学力・学習状況調査は、正答率の平均値が全国を上回っている。市との比較ではほぼ同じである。 ○生活習慣に関する調査では学校生活や家庭での基本的な生活習慣は概ね身についている。 （課題） ○基礎学力の定着に課題がある。 ○ＩＣＴを活用した「個別最適な学び」の効果的な取組や評価方法の研究を更に進める必要がある。	指導の個別化や学習の個性化による学びの自律化	①「自由進度学習」など「個別最適な学び」を効果的に取り入れた授業を実施する。 ②ＩＣＴを活用し、学習の習慣を身に付けさせる。	①全教職員の「学びの指標」授業アンケートの結果の平均点が、1 回目よりも2 回目の方が向上したか。 ②学校評価(保護者)の学習に関する肯定的評価が向上したか。				
		教員の指導力の向上と授業改善による質の高い学びの充実	①研修主任が主導し、全教員による公開授業、相互参観を行うことによって、指導力を向上させる。 ②当初面談で、各自が個々に目標を設定し、年間を通じて目標達成のための取組を継続する。	①学校評価(職員)の校内研修についての肯定的評価が昨年度より向上したか。 ②達成状況面談で、全員が目標を達成できたか。				
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 （現状） ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対し、肯定的な回答をした生徒の割合は高い。 ○発達支持的生徒指導の視点に立った学校行事への取組が行えている。 ○個に応じた居場所づくりを行っている。 （課題） ○外部関係機関との連携をさらに強化する必要がある。 ○合理的配慮に基づく支援の充実を更に進める必要がある。	ＩＣＴを活用した生徒指導・教育相談の推進	①おはようメーター、心と生活のアンケート、学習など、データを関連付けて分析することによって、課題を抱えた生徒を早期に発見する。 ②オンライン授業の実施など、不登校生徒の多様な学びをサポートする。	①スクールダッシュボードの活用が行えたか。 ②学校との繋がれない状態からオンライン授業への参加、あるいは、オンライン授業から対面授業への参加など、状況の変化があるか。				
		「チーム学校」による生徒指導・教育相談体制の充実	①スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等専門職との連携、外部機関との連携を強化する。 ②いじめの積極的認知とその後の対応について、学校全体で組織的な対応を行う。	①②「心と生活のアンケート」の要面談者数が、3 学期が最少となったか。				
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 （現状） ○三橋小・中学校合同（協働）の学校運営協議会を活用した小中一貫地域連携を実施している。 ○生徒が積極的に地域の活動に参加している。 （課題） ○学校・家庭・地域ができることを確認しながら協働活動を更に進めていく必要がある。 ○学校運営協議会で熟議された内容の周知方法を工夫する必要がある。	学校運営委協議会を基盤とした地域に開かれた学校づくり	①学校運営協議会で三橋学区が目指す児童・生徒像の具現化に向け、学校・地域・保護者の役割と具体的な取組について明確化する。	①学校運営協議会の熟議で、学校・地域・保護者の役割と具体的な取組について明確にし、協働へとつなげることができたか。				
		学校教育活動の積極的な発信	①地域にある学習機会（ボランティア活動）を積極的に周知し、参加を促す。	①学習状況調査【生活習慣に関する調査】の「地域とのかかわり」について肯定的な回答をした生徒の割合が前年度を越えることができたか。				
4	【教育環境の整備に関する取組】 （現状） ○登下校時の交通事故、緊急搬送、アレルギー緊急対応、施設管理の不備に起因する事故はゼロだった。 （課題） ○リフレッシュ工事に伴い、教育活動が制限される可能性、職員の業務が増大する可能性がある。	生徒の安全の確保	①工事中の登下校の安全について、実態を把握し、問題が見つかった場合は、即日対策を講じる。 ②管理職による安全確認、職員の定例の安全点検を確実に実施する。	①大宮西交通安全協会等に、生徒の登下校の様子を伺い、問題がある場合は、その都度、確実に、学級指導等を行えたか。 ②校地内の安全点検を毎月行えたか。				
		工事に係る負の影響を最小限に抑えるリフレッシュ工事の実施	①予想される問題点を具体的に想定し、関係課所、工事関係者との定期的な打ち合わせで、学校からの要望を早い時期に伝える。 ②保護者や地域に、丁寧な情報提供を行う。	①関係課所、工事関係者との定期的な打ち合わせが行えたか。 ②関係課所からの保護者、地域への情報提供を行えたか。				
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 （現状） ○ＩＣＴを活用し、校務の負担軽減を図っている。 ○ＰＬＡＮＴの活用により、キャリア段階に応じた研修の受講に努めている。 （課題） ○「校務支援システム」「スクールダッシュボード」の更なる活用を進める必要がある。 ○「授業観察シート」による、管理職や教員間の授業改善に係る対話を日常的に行う必要がある。	業務改善のさらなる充実	①各自が業務改善の目標を設定し、人事評価面談で、達成状況を振り返る。 ②職員の抱える業務上の悩みを管理職が日常的に聞き取り、解決策を共に考える。	①職員の９０％が業務改善の目標を達成することができたか。 ②月平均在校時間４５時間超の教員が昨年度よりも減少したか。				
		キャリア段階に応じた職員研修の充実	①管理職が日常的に「授業観察シート」を活用し、教職員の授業を参観し、指導する。 ②人事評価面談時に、ＰＬＡＮＴを活用し、キャリア段階に応じた研修受講を奨励する。	①全員の公開授業又は授業を参観し、指導することができたか。 ②学校評価(教職員)「研修への取組」の肯定的評価が昨年度以上となったか。				